

られている。

貌氏成形手術図譜は小山内建抄訳で明治15年7月出版の形成外科 Plastic Surgery 手術の図譜で、日本における形成外科史上のみばかりでなく口腔外科史上も貴重な資料である。内容は顎・顔面部癌の剔除術及び肉弁の移植、兎唇諸手術、造唇諸手術、口唇及顎諸手術などに分類され、その術式が図解されている。

6) 福島尚純著『下顎関節炎及牙関緊急』について

On “Mandibular Arthritis and Trismus” written by N. Fukushima

日本大学松戸歯学部 ○吉村 宅弘
門平 光信
中野 浩嗣
谷津 三雄

今田見信編、続歯学史料アルバムところどころ3(67)に「福島尚純は福岡の黒田藩の藩医の家に生れ、東京帝国大学医学部を明治38年に卒業され、佐藤(三吉)外科に入り助手、講師を永年やられていた。東京大学在職中に「外科総論」や「牙関緊急」の名著がある。また大正5年頃には「口腔外科」上、下2巻の名著も出版された。その頃東京歯科医学専門学校の口腔外科学の教授であって、内外に名声も高かった。昭和時代になってから出版された「女性と口腔歯牙」「黴毒と口腔歯牙」などの貴重な著書は私も(注：今田見信先生)販売に一役つとめたが、ひろく愛読されたものだ。関東大震災の直前、高山紀斎の銀座診療所を譲受けて福島医院(口腔外科、歯科併設)を開かれたが、大震災の為烏有に帰してからは、小石川駕籠町に医院を再開され、昭和7年末頃に小石川原町に新しく、近代設備をととのえた病院を建築されたが、移転されたばかりで病床の身となられ、東大塩田外科に入院手術されたが、遂に薬石効なく惜しくも逝去された。病気は胃癌であったと記憶する。昭和8年4月4日没せられた。福島博士は島峯徹博士と同期の東大卒業であるが、両先生は深く交友することもなく、お互いに別々

な道を歩んでいかれたというエピソードを残されたまま他界された。ともあれお二人ともわが国歯学に貢献された業績には貴重なものがあって面白いと思う」と記されている。

今回、演者らの一人谷津が蔵する福島尚純編、近世医学叢書、第拾巻編、下顎関節炎及牙関緊急(明治42年11月3日発行、南江堂)を資料とし、その内容を報告し、口腔外科学史の一端としたい。

下顎関節炎は急性、慢性の他に下顎関節神経症に分類され、特に下顎関節神経症には「幼年、中年時代ノ女子ニ見ラレ、特別ナル誘因ナク激痛ヲ耳内ニ覺エ、由リテ耳ヲ検査スルモ異常ナク、圧迫ヲ加ウルニ僅カニ下顎関節部ニ鋭敏ナリ、且ツ下顎関節運動ニ際シテ罹患側ニ疼痛ヲ訴フルノ外、其他何等ノ所見ナシ、ブルック Bruck ハ是ヲ以テ関節ノ神経症ナリトナセシガ、疼痛ハ数週間後ニ消散セリト云フ」と記載され、今日の心因性または心身症にみられる顎関節症とも考えられる。

牙関緊急は「牙関緊急ノ定義及同分類法ニ就テ」に次いで関節性、外傷性、先天性、両側関節性、炎症性、癥痕性、筋性、痙攣性、其他の牙関緊急形態などに分類されている。

7) 第5回内国勸業博覧会の歯科出品物

第1報 歯科器材について

Dental products exhibited at the Fifth National Exposition for the Encouragement of Industry,
I. Dental materials, instruments and equipment

日本大学歯学部 大橋 正敬

第4回内国勸業博覧会は、桓武天皇の京都遷都1100年を記念して、明治28年(1895年)に京都で開催された。明治10年大政官布告第88号によれば、第5回は明治32年に開催されることになっていたが、明治33年のパリ万国大博覧会へ官民共に参加準備のため、その開催は延期され、明治33年5月16日勅令第176号によって、第5回内国勸業博覧会を明治36年(1903年)3月1日から7月31